

小野川の河川環境学習 名前（ ）

小野川

小野川（おのがわ）は、茨城県南部を流れて霞ヶ浦に注ぐ一級河川である。茨城県つくば市小野崎に水源として南東へ流れ、牛久市から稲敷市へ流れて霞ヶ浦に注ぐ。つくば市内では稲荷川につながっていて、小野川上流域の水の一部は牛久沼に流れている。

江戸時代には小野川流域に薪炭林（まき）としてのアカマツ林が広がっていた。まきや農作物は小野川から霞ヶ浦・利根川を通して江戸まで船で運ばれた。当時は、稲敷市の江戸崎地区がこの水運で栄えた。

1979年に小野川を稲荷川につなぐ人工の川が造られた。これは筑波研究学園都市からでる都市排水を流すためであった。

小野川 小野崎

小野崎は小野川の源流・上流にあたる。湧水（わき水）がもとである。御城（味城）というお城と洞峰公園が源流である。源流からの流れはコンクリートでできた用水路となっている。



御 城



洞峰公園

小野川 中根小の下

中根橋付近は、小野川の中流にあたる。側面はコンクリートでできているが、底面は自然な状態である。川底からは霞ヶ浦が海だったころの貝の化石が見られる。貝の化石は約12万年前のものだそうである。写真は冬なので植物が枯れているが、ヨシやマコモなどの植物がたくさん生えている。野鳥が川や近くの水田で観察できることがある。



中流の観察のポイント

（人工的な部分と自然な部分がある川）

- ・上流に比べて、川はゆるやかになり水量が多い。
- ・川の回りはコンクリートで固められているが、土砂が積もって中州ができている。
- ・水は農業用水として使われ水田をうるおし、豊かな実りをもたらしている。



小野川 古渡橋

小野川の河口にあたる。古渡橋が、小野川と霞ヶ浦の境界となっている。茨城百景に選ばれたところであり、景色が美しい。コンクリート護岸の内側にヨシ原が広がっている。冬にはオオヒシクイの越冬地で有名な稲波干拓地も近い。冬は水面に多くのカモやガンの群れを観察することができる。



下流の観察のポイント

- ・側面はコンクリートであるが、自然が残っている。ヨシやマコモなどの水生植物やヤナギなどが見える。
- ・コンクリートの護岸の近くに砂やどろが、積もっていて、植物が生えている。
- ・川幅は広く、流れはゆるやかである。

